

テールアルメの基礎地盤改良

テールアルメ工法の基礎地盤処理方法の概要と特徴

処理方法	概要	適用土質	一般的な特徴と注意点
碎石による 掘削置換え工	軟弱層を碎石に置き換える工法。 内部摩擦角が35°以上の良質な碎石とする。	砂質土 シルト質土 粘性土 腐食土 他	特徴：あらゆる土質に適用でき、施工は容易である。 地下水位が高い場合などは、透水係数の高い碎石は有効である。 注意点：置換え可能な深さは約5m程度である。 搬出土砂の処理。
浅層混合改良 (セメント系)	セメントの水和反応過程での土粒子の固結及び間隙の充填。 固化材は、普通ポルランドセメント、セメント系固化材等	砂質土 シルト質土 粘性土	特徴：軟弱地盤と固化材を現地にて混合し改良する。 搬出土砂が発生しない。 注意点：有機質土の場合、セメントの水和反応が阻害される。
浅層混合改良 (石灰系)	粘土と石灰の間でのポゾラン反応による土粒子の固結及び間隙の充填。 固化材は、消石灰、生石灰等。	砂質土 シルト質土 粘性土	特徴：軟弱地盤と固化材を現地にて混合し改良する。 搬出土砂が発生しない。 注意点：処理効果が発揮されるまで、長期間を要す。 養生温度、凍結融解の影響を大きく受ける。 粘性分が少ない場合、安定処理の効果が小さい。